

小学校

資料名「およげないりすさん」(出典：わたしたちの道徳)

- ◆実践校名 富田林市立久野喜台小学校, 松原市立松原南小学校, 松原市立松原東小学校, 藤井寺市立藤井寺小学校, 大阪狭山市立第七小学校 東大阪市立永和小学校
- ◆主題名 ともだちと なかよく **道徳の内容** B-友情, 信頼
- ◆ねらい 友達の気持ちを考えて、互いに助け合っていこうとする心情を育てる。

◎ 中心的な発問

どんな人が、なかよし名人だろう。

◆ 本時の展開

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	◎およげないりすさんに出てくる登場人物の中で、仲間はずれの動物を見つける。	<p>4人の動物の中で1人だけ仲間外れの動物がいます。だれですか。また、どうしてですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かめさん…歩くのが遅いから。 ・りすさん…泳げないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○4人の掲示物を用意して、考えさせる。 ○題名にもあるように、りすさんだけ泳げないということをおさえる。
	◎資料の前半部分を聞き、話し合う。 (1)りすさんに断った時の3人の気持ちを考える。 (2)島で遊んでいる3人の気持ちを考える。	<p>3人はどうして、りすさんを断ったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんはおよげないから仕方がない。 ・りすさんはおぼれちゃうから、無理だ。 ・早く島に遊びに行きたいから。 <p>なぜ、少しも楽しくないのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんを1人でおいてきてしまったから。 ・りすさんはどうしているかな。 ・りすさんにわかったな。ごめんね。 ・りすさんおこっているかな。 ・やっぱりりすさんも一緒にいいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は前半・後半に分け、紙芝居で読み聞かせをする。 ○かめさんたちが、りすさんの気持ちを考えていなかったことに気付かせる。 ○理由を聞き出す中で、ねらいに迫りたい。 ○挿絵の3人の様子も参考にしてお考えさせる。
展開	(3)りすさんも一緒に遊ぶための工夫を、グループで話し合う。 (4)みんなで考えた工夫を発表する。	<p>りすさんもなかよくいっしょに遊ぶために、どんな工夫ができるか話し合ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなでりすさんをおんぶして一緒に島へいく。 ・みんなで船をつくる。 ・りすさんにおよぎ方を教えてあげる。 ・みんなで島に行かずに遊ぶ。 	<p>＜評価＞</p> <p>自分たちで工夫を考えられているか。</p> <p>(評価方法)</p> <p>各班で考えたことを、発表する。</p> <p>＜評価をいかした支援＞</p> <p>発表を通して感じた、りすさんへの気持ちを、次の発問へつなげる。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展 開</p>	<p>◎資料の後半部分を聞き、話し合う。</p> <p>(5)4人で島に向かっていく時の気持ちを考える。</p> <p>◎資料から考えたことを学校生活にいかして考え、ワークシートに書く。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>4人で島に向かっていくときのそれぞれの気持ちを考えよう。</p> </div> <p>(りすさんの気持ち)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんながさそってくれて、うれしい。 ・いっしょに行けて、うれしい。 ・みんなありがとう。 <p>(三人のきもち)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・りすさんが、よろこんでくれてうれしい。 ・りすさんを誘ってよかった。 ・みんなが一緒の方が、やっぱり楽しいな。 ・最初からみんなで遊べばよかったな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>どんな人がなかよし名人だろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・いっしょに遊ぼうってさそう人。 ・友だちの気持ちを考える人。 ・みんなで遊ぶ方法を考えられる人。 ・友だちにやさしくできる人。 ・友だちを助けられる人。 	<p>○まずは、りすさんの気持ちを考え、発表する。そして、その後に3人の気持ちについて考え、発表する。</p> <p>○少しも楽しくなかった気もちとみんなで行く楽しい気持ちを対比させる。</p> <p>○挿絵の4人の様子も参考にし、て考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと仲良くするために大切なことは何かを考えることができたか。 <p>(評価方法)</p> <p>ワークシートの記述により評価する。</p> <p><評価をいかした支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級通信で紹介する。 ・子どもたちの意見を画用紙などに書き、教室に掲示する。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>これからの日々の生活にいかす。</p> </div>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終 末</p>	<p>◎ふりかえりをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>今日の学習をふりかえってみましょう。</p> </div>

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

- ◆場面絵や短冊などを掲示したり、登場人物のお面をつけてロールプレイをしたりすることで子ども達は、登場人物（動物たち）の立場になって気持ちを考え表現することができた。
- ◆中心発問「どんな人がなかよし名人だろう。」という問いに対し、自分たちの生活の中から考えるというよりは、資料の中の動物の名前や友だちの個人名を書く児童が多かった。1年生の児童には、テーマ発問でなく、登場人物の気持ちを考えるところを中心発問にした方が考えやすかった。
- ◆ワークシートについて
 - ・低学年はワークシートに書かせるにも多くの支援を要する。考える手立てとなる具体的な補助発問を設定したり、全体発表の前に少人数での交流の場を設けたりするなどさまざまな支援を考えていく必要がある。
- ◆ふり返しについて
 - ・1年生の児童には1時間に2つ書く活動は難しいということで、今回は、○△などによる個々のふり返しにしたが、今後どのようなふり返しにしていくのか考えていく。
- ◆発問の精選や授業展開に係わる時間配分など検討していく。
- ◆評価について
 - ・1時間の授業の中で、授業者一人で全ての児童を把握し評価するのは難しい。評価の観点をどこにもっていくのか（ワークシートの内容・個人内評価？）、また、長期的な視点で子どもの深まりを捉えていくことが必要である。（授業者による児童の記録・道徳ファイルへの蓄積等）

○道徳の評価についての提言

●ふり返しシートの継続活用と保存

低学年にワークシートを使った評価は難しい。複数項目の文章表記は時間がかかり、かといって、心情面や態度面を問う項目に◎や△の記号で答えるだけでは、児童の考えが伝わりにくい。しかし、ワークシートがなければ、どうやって一人ひとりの心の変容をひろっていくのか、道徳の時間の評価は、特に低学年の場合、担任一人での見とりには限界がある。

そのほかにも、児童の発言内容などから評価することができるが、挙手しなかった子の考えは、わかりにくい。また、グループ活動を活発なものにすると全員参加ができるが、グループ全体としての意見なので、個人に返すことはできない。

では、どうやって評価の難しさを克服していくのかチームで話し合った。

まず、無理をしすぎないこと。道徳の時間に全員は無理でも普段と違う様子、発言などの見られた児童についてその都度記録を残していく。次に、主発問や感想など、一つだけでも文章表記のふり返しを続けることで、児童がやがてはその形式に慣れ、文章で表すことへの抵抗が減り、書く習慣が身につく。これにより授業後、価値にどれだけせまれたか評価することができる。

さらに、授業者がイメージを持って授業することが大事だという意見が出た。教師の思いばかりが前面に出てしまうと、正しい評価がとれなくなる。子どもの何をどんなふうに評価したいのか、大事にしたい評価の基準を明確に持つ必要がある。ふり返しワークシートは、教師の力をつけていくためにも重要だ。

最後に、道徳の時間に限らず、学年・学校全体で児童を見守っていききたい。チームの中には、ふり返しシートを職員室の先生方に見てもらい、互いに評価し合う学校もあった。

以上、ふり返しシートの継続活用と教師の記録などから道徳の評価をしていきたい。

【各校での実践の記録】

◆実施学年（1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

- ・「りすさんも一緒に遊ぶための工夫を、グループで話し合う」活動では、どの班もかめさんの背中にりすさんをのせて島に連れて行ってあげればいいという考えだった。
- ・遊び場所を変える方法やりすさんの体がかめさんより大きかったらどうするなど、ゆさぶりをかけようとしたが、池の渡り方が各班少しずつ異なっていた。その工夫を発表しようとはりきっていたため、評価した。
- ・登場人物のお面をつけてロールプレイすることで、登場人物になりきって演じ、4人の気持ちを考える次の発問につなげることができた。

（中心発問の場面の発言の様子やワークシートの内容から）

- ・物語が一旦終わり、自分たちのことに切り替えて「どんな人がなかよし名人だろう。」と問いかけることが弱かったため、大半の児童は、資料の中で答えていた。そこで、「みんなが遊ぶ時」、「休み時間に運動場で遊んでるね。」と学校生活に戻して考えさせた。それでも「およげないりすさん」からはなれられない児童もいたが、「みんなで遊ぶと楽しい。」、「かめさんみたいな人 → やさしいから、いいことを思いついたから」など友だちと仲よくするために大切なことを考えていた。

（学習の振り返りから）

- ・ほとんどの児童が、動物たちの気持ちを考え、「なかよし名人」について考えることができたようだ。

○成果と課題

- ・振り返りの項目の検討
- ・「わたしたちの道徳」を先に読んでいる児童がいるため、途中で切って考えるときに答えを知っている場合がある。
- ・時間配分
- ・授業をしながらの評価は難しいので、ワークシートが有効

◆実施学年（1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

○評価活動を行った場面と方法

「どんな人がなかよしめいじんだろう」という中心発問に対して、資料から考えたことを学校生活に生かし、発言させたり、ワークシートに記述させた。

○子どもの記述や様子からどのように評価したか

子どもの発言（様子）から

- ・ A 「いじめられている人をたすけてあげる人」
 ・・・学校生活に生かして友達関係を考えている
- ・ B 「いっしょにあそぶのにさそってあげる人」
 ・・・学校生活に生かして考えている
- ・ C 「人のことを考えてくれる人」・・・学校生活に生かして考えている
- ・ D 「やさしい人」・・・どのように優しい人か
- ・ E 「りすさんをのせたかめさんがなかよし名人」
 ・・・物語から自分の生活に引き寄せられていない
- ・ F 「○○さん」（クラスの子の名前）・・・だれかではなくどのような人かである

子どもの記述から

子どもの記述においても、発言と同様に、資料から考えたことを学校生活に生かして考える人が多かったが、「○○さんが、●●してくれた」という、事実だけで終わっている児童もいた。

○子どもへの支援

- ・ D、E、Fの児童については、どうしてその人がなかよし名人と思うのかを聞いて考えさせた。
- ・ はじめは、物語からなかなか離れられない子どもが多かったが、場面ごとに黒板に貼った挿絵を使って振り返りを行う中で、前半と後半の変化に着目させた結果、「かめたちは変身した。いじわるからやさしくなった」と気づく子どもが増え、「なかよしめいじんとはどんな人か」について、自分なりに発言したり、書く子どもが増えた。
- ・ 「なかよしめいじん」という言葉に慣れていないため、突然聞いてもイメージしにくいのではと考え、授業の数日前から、姿勢の良い人を「しせいめいじん」などと、日頃から「めいじん」のイメージを持たせることを意識づけた。

○成果と課題

- ・ 場面ごとの挿し絵を黒板に掲示しながら読み聞かせをしたことが、児童に初読の話を理解させる上で効果的だった。
- ・ りすさんも一緒に遊ぶための工夫を隣同士で出し合うことで、積極的に手を挙げて発表する姿が見られた。
- ・ 1年生にとっては、学習の内容が少し多かったように思われる。評価場面を最後の1つに絞って学習を進めたが、それでも最後、時間が足りなかった。
- ・ ワークシートを書いたあと、ペア同士かグループで交流する時間がとれれば良かった。
- ・ 発問の精選や時間配分などしっかり考えていく必要がある。

実践校名（松原市立松原南小学校）

◆実施学年（2年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

○班交流の場面の発言の様子や内容から

- ・りすも一緒に遊ぶための工夫を、班で交流した。「カメの上へのせる」と答えた児童が多かったが、他にも「白鳥へのせる」、「浮き輪をつくる」、「船をつくる」など、一生懸命考える姿勢が見られた。各班に教師が一人ずつ入って、班交流を行うことで、児童の発言をつなげたり、意味づけたりといった支援が行えた。

○中心発問の場面のワークシートの内容から

- ・「どんな人がなかよし名人だろう」という教師の問いに対し、「かめさん」と答えた児童がほとんどであった。資料の中でのことか、自分の生活をイメージしてのことなのかが、明確ではなかったと感じられる。
- ・「かめさんがなかよし名人」と答えた児童の中には、「やさしいから」、「いっしょにあそんでくれたから」などその理由を書いていた。また「いっしょにあそぼうっていえたりすさん」もなかよし名人だと答える児童もおり、児童の普段の遊びの中で経験している、「なかよし」を、一生懸命言葉にしていたように感じられる。しかし、ワークシートに書くことが難しい児童も多く、教師が声をかけながら、一緒に考えることで、気持ちを引き出せるようにした。
- ・一人の児童が、6年生のお兄さんの名前を書いた。日常的に優しく関わってくれる6年生のお兄さんの姿を思い浮かべ、実際の生活の中でのこととして考える事が出来ていた。担任が全体交流の時に取り上げることで、自分たちのまわりにいるなかよし名人に目をむけるきっかけをつくることができた。

○成果と課題

- ・担任＋12名の教師が評価に携わり、班ごとに教師がついて評価を行った。授業後の振り返りの中で、道徳の評価についてたくさんの教師で考えることができたのは、とてもよい時間であった。
- ・評価のとれる授業展開、ワークシートを書かせるタイミングやその内容が重要であると感じた。それぞれの児童が持つ道徳的価値の違いやその深さの違いを受け止めながら、長期的な視点で子どもの深まりを捉えていくことが必要である。
- ・しかし、授業者一人ですべてを把握することは大変難しい。さらに、低学年ではワークシートを書かせるにも多くの支援を要する。その中で、主発問とふりかえりの二回について自分で考え、全体で交流しながら、少しずつ深めていくことが必要であると感じた。

◆実施学年（1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

（場面と方法）

- ・資料について考えた後、「どんな人がなかよし名人だろう。」というテーマ発問を投げかけ、ワークシートに記述して考えた。

（記述内容の評価の観点）

- ・友だちと仲良くするために大切なことを考えられているか。

（子どもたちの様子）

- ・資料において、それぞれの登場人物の気持ちなどを考えることができていたが、突然のテーマ発問に何を書いたらいいのか、戸惑った児童が多かった。資料とのつなぎ方が、うまくいかなかったことが反省である。

（子どもたちの記述の内容）

- ・やさしい人
- ・いっしょにあそんでくれる人
- ・こまっているときに、たすけてくれる人 などの記述が多かった。

（書きにくい子どもへの支援）

- ・なかのよい子を思い出す。⇒その子のどんなところが好き？など具体例をあげて考えさせた。
- ・どんな人となかよくなりたいたい？などの声かけもした。
- ・書いている何人かの意見の発表を聞き、イメージをつかませた。
- ・書けない子には、友達の意見を聞いて、それを書いてもよいと伝えた。

○成果と課題

（成果）

- ・自分の中で、こんなことに気づかせたいという思いをもって授業に取り組むことができた。
- ・一生懸命、書こうとする子どもたちの姿があった。書くことが苦手な子どもたちも、しだいに書けるようになってきたので、繰り返し取り組んでいくことの大切さを実感した。

（課題）

- ・テーマ発問ではなく、登場人物の気持ちを考えるところを中心発問にした方が、現段階の本学年の子どもたちは考えやすかった。評価について考えられるほどの授業ができなかったことが反省である。（内容項目に迫るようなことが書けていた児童は少なかった。）
- ・評価の観点をどこにもってくるのかを、教師自身が明確にして授業に臨まないといけない。
- ・中心発問の大切さを感じた。子どもたちが考えやすいような中心発問の設定や、その発問までの授業をどのように流していくのかを、もっと丁寧に授業を組み立てていく必要がある。
- ・1年生において、1時間に2つ書くという活動は困難である。そのため、今回は、○などによるふり返りにしたが、子どもの発達段階に合わせたよりよい方法を考えていかなければならない。

◆実施学年（1年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

（場面と方法）

- ・資料について考えた後、「どんな人がなかよし名人だろう。」というテーマ発問を投げかけ、ワークシートに記述して考えた。

（記述内容の評価の観点）

- ・友だちと仲良くするために大切なことを考えられているか。

（子どもたちの様子）

- ・テーマ発問だったので、何を書いたらいいのか、戸惑った児童が多かった。

（子どもたちの記述の内容）

- ・クラスの友だちの名前
- ・いっしょにあそんでくれる人
- ・こまっているときに、たすけてくれる人 などの記述が多かった。

（書きにくい子どもへの支援）

- ・同じクラスの友だちを思い浮かばせる⇒具体例をあげて考えさせた。
- ・書いている何人かの意見の発表を聞き、イメージをつかませた。
- ・書けない子には、友だちの意見を聞いて、それを書いてもよいと伝えた。

○成果と課題

（成果）

- ・1年生でもある程度テーマ発問で考えることができることがわかった。
- ・具体的な友だちの名前を挙げてくれる子どもが多かった。（生活と結びつけて考えることができていた。）

（課題）

- ・登場人物の気持ちを考えるところを中心発問にした方が、子どもたちは考えやすかった。（内容項目に迫るようなことが書けていた児童は、少なかった。）
- ・中心発問の大切さを感じた。子どもたちが考えやすいような中心発問の設定や、補助発問の大切さ。
- ・1年生において、1時間に2つ書くという活動は困難。そのため、今回は、○などによるふり返りにしたが、今後どのように進めていくべきか。（ふりかえりをより具体的に出させた方がよいのか。）